

令和元年 12月5日(木) 第29号



平和学習会を終えて…[前編]



堀江中学校では、毎年全校生徒が体育館に集まり、「平和」を考える学習会【平和学習会】をもちます。昨日12月3日(土)、その平和学習会がおこなわれました。61期生にとっては、去年に続いて2回目の平和学習会になります。ところで、去年の平和学習会のことは覚えているでしょうか？去年は、大阪大空襲【1945年3月13日深夜から14日未明にかけておこなわれた大空襲に始まり、終戦までに計8回にわたっておこなわれ、約15000人が亡くなった】に関する学習をおこないました。私たちが暮らす堀江地域が火の海となったことはなかなか想像できません。ショッキングな記録映像もありましたが、食い入るように見ていたキミたちの姿が印象的でした。



今年の平和学習会では、被爆2世の方を講師にお招きして、「原子爆弾」に関するお話をお聞きする学習となりました。途中、写真や動画も交えながら、非常に興味深いお話の連続でした。やはり、それらの中には衝撃的な映像や動画もあります。しかし、今年もキミたちは、しっかりと映像を見て、お話を聞き、たくさんのことを知ろうとしていたように思います。その後、教室で学習会の感想を書くときには、誰と相談することもなく、自分の気持ちを黙々と書き続けていました。その姿も、平和学習会の内容がキミたちの心に響いていたことを物語っているのだと思います。そこで今日は、キミたちの感想の中から、いくつかのものを紹介します。自分と同じ感想だけでなく、自分とは違った感想など、当然ながらいろいろな感想があります。どんな感想を読むにしても、私たちにとっては良い刺激となります。みんなの感想を読んで、引き続き、平和について考え続けましょう。

◆亡くなってしまった人は、たくさんの思いがあるし、ケガなど、家族や住んでいた町を元に戻すことはできないのがとても悲しいと思いました。今の自分には助けたりすることはあまりできないけど、今日お話をされたことをしっかりと頭に入れておきたいと思います。

◆今まで「原爆の力はすごい」としか思っていなかったけど、今日原爆の動画を見て、「絶対に体験したくない」と本当に心から思うようになりました。そのためには、核を世界から消す必要があるから、そのために今から勉強しようと思います。私は小学校の修学旅行で広島に行って原爆ドームを見ましたが、機会があったらまた広島に行って、すべてを学んだ上で原爆ドームなどを見にいきたいと思います。

《裏面に続きます》



◆原爆は町や人、自然など、いろんなものを破壊する、とても恐ろしく、非人道的な兵器だと改めて認識しました。この兵器を人間が作ったというのはとても怖いです。次の時代を背負っていく自分たちが、そのまた次の時代の人たちに原爆のことを伝えていき、原爆のことを忘れないようにしないとダメだと思いました。「もう同じ過ちをしないように原爆をこの世からなくす」といっている国がまだ核をもっているのはおかしいと思います。

◆広島は、カメラマンが泣きながらシャッターを押すほど残酷なものだったと思うと、今、けがをしてもすぐに治してくれるお医者さんがいて、食料も何も困らないこの日本のような国を世界中につくってあげたいと思います。また、初めて核実験の映像を見たのですが、思っていたよりもすごい爆風と熱線だったことが映像からもわかったので、この世界中に核兵器を持っている国が1日でも早くなくなれば、平和な世界をつくってあげたいと思いました。私のおばあちゃんも被爆者で、私が被爆3世になるので、絶対に戦争を繰り返さないためにも、まずは自分のことから行動に移していきたいです。

◆改めて戦争の恐ろしさ、おろかさを知りました。核実験の映像は初めて見たので、とても貴重な映像だったと思います。やはり原爆のことを知るには体験者の絵を見るのが一番良いと思います、何回も見たことはありましたが、あの皮膚がはがれているのは衝撃的です。この過ちを無駄にしないのが今の僕たちができることだと思います。これからの僕たちも含む若い世代が「戦争」という間違っただ判断をおかさないためにも、どんどん伝えていきたいです。

◆僕は、今日の平和学習の話を聞いて、世界は何のために、誰が得すると思って戦争をやり始めたのかなと疑問に思いました。戦争を体験した人たちがいなくなってきているので、体験者の生の声を聞き、後の世代に継いでいき、二度とあのような戦争をしないようにしていきたいと思いました。恥ずかしくても、それを乗り越えて自分の意見を伝えていける、発信できる日本人をもっと増やしていくように、自分も勇気ある人間に成長し、いろんな人々に伝えていけるように努力していきたいと思いました。

◆私と同じ年齢の人が、国のためにと働いていたこと。私と同じ14歳で命を落としてしまったこと。今を生きている私にはありえないようなことが起こっていたことがとても悲しいです。日本だって悪かったところがある。でも、何も悪くない人の命を奪ったアメリカ軍を許すことは被害にあった人にはできないと思います。2回も原爆を落とされた日本が、世界のリーダーとなって原爆をなくす日が来ることを私は望んでいます。



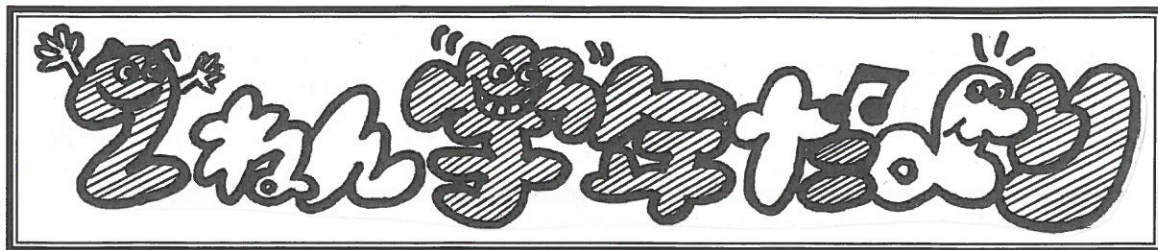
ここに紹介したもの以外にも、深く考えられている感想もありましたが、ここでは代表的なものだけの紹介にします。また、同じような感想もたくさんありました。ここでは「これは誰の感想なのか?」ということは気にせず、自分たちの同級生がこのような感想をもったのだ、そして、それをこういう言葉で表現したのだということを実感してほしいと思います。

《※紹介した感想文の中には、紙幅の都合で省略した部分があります。また、誤解を招きそうな表現は、意味を損なわない程度に改めました。》

⇒⇒⇒2枚目(第30号)に続く。

保護者のみなさまへ

平和学習会で聞いたお話は、生徒たちの心を強く打ったようです。文字数が多くなりますが、何人かの感想を紹介します。ご家庭でも話題にして、話し合っていただければ幸いです。



令和元年 12月9日(月) 第30号



平和学習会を終えて…[後編]



前回の【前編】に引き続いて、今回も平和学習会の感想を紹介します。この学年だよりを作っている今、アフガニスタンで、ピースジャパンメディカルサービス(平和医療団日本)総院長の中村さんが乗った車が銃撃され、命を落としたというニュースが飛び込んできました。30年間もアフガニスタンの医療のために力を尽くした人が命を奪われる…、やはり、この世界はまだ平和ではないようです。私たちは、引き続き、平和について考え続けなければなりません。

◆戦争をしてはいけないのはわかってはいたけど、「しない・させない・忘れない」を考えないといけないと思った。そのためには、広島や長崎に行って学ぶ。体験した人の話や映像を見て学ぶ。そして語り継ぐ。今、自分たちにできるのはそれではないかと思った。

◆放射能を受けた人の中には、小さな子ども、未来ある若者、家族のもとへ帰りたいと思っていた兵士、そんな人たちもいたと思うと、この人たちは何のために死んだのか、その人たちが一体何をしたのか、そんなことばかり考えてしまいます。しかし、「戦争は無意味だ。何も生まない」で終わらせたらダメだと思います。確かに戦争は悲しみしか生みません。でも、戦争や原爆によって命を落とした人は無意味じゃありません。戦争を無意味なもので終わらせず、意味のあるものにしなければなりません。

◆私は今日の話を聞いていろいろ思うことがありました。特にいろいろ思ったのが、「はだしのゲン」の作者中沢さんの動画です。私は「はだしのゲン」を読んだことはありませんが、少し刺激が強いことは知っていました。なので、今回見て、イラストからの人的な被害がすごくよくわかりました。今回のお話で、本当に目をつむってしまいたくなるようなお話はありましたが、日本人として知っておかなければならないことをたくさん教えていただきました。私ができることを考えながら、日々を過ごしていこうと思います。

◆ぼくは「はだしのゲン」の作者の話を聞いてゾッとしました。目の前では家族がまだ生きているのに救えず、ただ抱きしめて泣くことしかできないのはつらすぎるし、最後は家族の悲鳴を聞きながら逃げなければならないのは、まさに地獄だと思いました。ぼくなら精神がおかしくなると思います。でも、作者は思い出すまいとするんじゃなくて、それを作品として後の時代に残すという決断がすごい心だなあと感じました。

◆今日、原爆についての話を聞いて、改めて戦争とは本当にしてはいけないことだと思いました。何の罪もなく亡くなっていった人たちが家族や友人のことを思って亡くなったと考えると、すごく胸が痛いです。自分が本当に戦争や原爆を体験したわけではないので、体験した人の気持ちを理解することはできないけれど、悔いを残して亡くなっていった人たちの分、今の時代を生きる私たちが一生懸命生きなければならぬと思いました。

《裏面に続きます》





◆そのとき私たちはまだ生まれてもなく、何もわからない状態でしたが、その写真を見ると、その当時自分がいたらどうなっていたのだろうかと思い、心がすごく痛くなりました。被爆者が描いた絵を見ると、こんなにひどい出来事があって、多くの人がつらい思いをしたのだと改めてわかりました。貴重な話を聞かせていただいて、平和は自分が思っている以上に大切だとわかりました。

◆ぼくたちは戦争というものの体験したことがないので、「戦争は“とりあえず”ダメなんだ」という気持ちの人がほとんどだと思います。しかし、たぶん、経験した人にしかわからない“何か”がその人たちの心にはあるのだと思います。「戦争を体験していないのだから、とりあえずダメだけ言っておこう」ではなく、「そんなものを体験することがまずいけないこと。そして、そんなことをこれから一切しない」という気持ちを持つことが大切だと思います。

◆国が違ってみんな同じ人間なのに争っていることが、どうしてもつらいです。無関係な人までも巻き込む戦争は今すぐにでもやめるべきです。もう二度と同じ過ちを繰り返さないように自分でできることを考え、懸命に取り組みたいと思います。自分が生きている幸せ、ご飯をたくさん食べることができる幸せ、小さな幸せに感謝して生きていこうと思います。

◆「はだしのゲン」が、あんなに原爆の日のこと、被害の様子を生々しく描いている作品だということを初めて知りました。“戦争は恐ろしいものだ”とか、“戦争はしてはいけない”とかは教えられているけど、どんな人が、どんな風に被害にあったのか、そのことをどう思っているのか、戦争や原爆はその人の目にどう映ったのか、実際に体験談を聞くことは少ないだろうけど、そういうことを知ることはとても大切だと強く感じました。

◆戦争を経験している人は本当に苦しくて怖い思いをしていると思います。戦争を経験している人はこれからの日本のためにたくさんの知識を私たちに伝えてくれています。その気持ちに感謝して、しっかり答えていけるように自分も戦争についてたくさん知って、身の回りの平和というのを叶えていけるようにしていこうと思います。

◆被爆者の平均年齢は80歳をこえており、被爆体験を語れる人は少なくなっているが、その話を聞き、後世に伝えることはできる。いつまでも受け継ぐべきだと思う。国民全員が平和を保つという気持ちを持ち続けていくことが大事だと思う。次の世代にも積極的に今日聞いた話をし、戦争の怖さを伝えたい。

戦争が終わった1945年、私たち人類は「戦争なんて二度としない」と心に誓いました。あれから74年、戦争を体験した人の高齢化が進み、戦争体験者は確実に減っています。そんな中、人類があれほど憎んだはずの戦争が、何となく身近に迫りつつあるように感じてしまうのは気のせいでしょうか。たとえ戦争まではいかなくても、私たちの身の回りに“理不尽”や“暴力”はないでしょうか。【悪口】と【いじめ・言葉の暴力】と【ケンカ】と【戦争】は、すべて同じ線の上に乗っています。日常生活を注意深く観察し、丁寧に排除していく必要があります。



保護者のみなさまへ

2号にわたって生徒の感想を紹介しました。どれも、生徒たちなりに感じたことや考えたことを文章にしたものです。紹介したものはごく一部だけではありますが、他の生徒もたいへん深く考えていたことが、その感想から読み取ることができます。生徒たちが“親”になったとき、我が子に対してどのように平和を語るのでしょうか。「平和学習」の取り組みは今後も続きますが、ぜひご家庭でも、機会をとらえて戦争や平和といったことについてお話をさせていただきたいと思います。